

能美市タウンミーティング（能美市婦人団体協議会）

平成29年10月30日（火）19:30～21:30

能美市ふるさと交流センター さらい

【司会】

きょうは、婦人会員が減少しているというのを、市政懇談会とタウンミーティングで市長が聞きまして、市のほうから何か協力できないかということで皆さんに集まっていたきました。「市長を囲む会」と名付けたのですが、ここでざっくばらんに皆さんに語っていただきたいなと思います。

まず初めに、3校下、根上・寺井・辰口で減少のあり方を、事務局のほうから、そのことを先に話してもらおうと思います。辰口からお願いします。

【辰口地区住民】

辰口は町会が37ある中で、婦人会に入っている町会が17しかありません。人数が少なくなり、町会ごとに抜けていくのが、この3年間はないのですが、5年ぐらい前まではぼつぼつとあり、あつと言う間に今の数になりました。

資料を見ると、3年間で増えたところもあります。しかしそれは、声掛けをして、偶然同じ小さい子供がいる近所の人たちが集まって入ったという状況です。

実際、辰口校下婦人会でいろんなイベントをすると、役員さん、町会長さんがやっと出てきて、あとは少し興味のある人が1人、2人出てくるという感じで、一人一人が婦人会の会員という意識がそんなに強くないという状況です。

【寺井地区住民】

寺井は19町会あるのですが、そのうち女性会があるのは現在17町会です。人数が少ないために毎年の役員、会長をずっと同じ人がする地区もあります。その中で緑町と末寺町は一応会員登録をしていて年会費も収めてもらっていますが、活動的なことはしておらず、そのかわり補助金もありません。東任田だけが去年か一昨年か、もう活動もしないし会費も払わないと完全に抜けました。中には継続したい人もいたのですが、多数決でそうなった感じでした。

なぜ会員登録だけするかというと、なくしてしまうと後から戻りにくいのもあるし、やっぱり衣装とか祭壇の割引を使いたいという意見があり、一応年会費だけ収めている形で

す。

平成26年と29年、新保町と吉光町がふえているのはどうしてかという質問がありました。新保は今までずっと同じような人数だったのがたまたま26年に減って、その次にまた戻ったためです。吉光には新しい造成、住宅がいっぱいできました。それで、旧の住宅と新しいところが、道でぽかっと分かれているので、ちょっと誘いにくく、その当時の吉光の幹部の方たちは悩んだのですが、1回、運動会とかで声かけしてみたところ、何人か入ってくださり、それでふえたみたいです。粟生も新しい家が結構ふえているので、声をかけに行ったけどなかなか入ってくれなかったみたいです。あと、保護者会とかPTAとかで一緒になったときに誘ったり、運動会などで誘う場合は奥さんに入ってもらえないかと旦那さんを説得したりします。旦那さんは大体地元の人が多いので、少しは入ってくれる人もいます。減ってきてはいるのですが、若い人も少しは入ってきています。でも、年齢の上の人がやめていったりするのでとんとんです。

【根上地区住民】

根上は、19町とも今も婦人会は全部残っています。ただ、昔サントウンが新しくできたばかりのときに、1つの地区として19町プラスサントウンみたいな感じで20町あったのですが、それは現在なくなって、(サントウンからは)1人だけが加盟して活動してくれています。

全体的には前に比べて112名ぐらい減っているのですが、やっぱり、町ごとに元気のある町と、やっと活動している町があります。前に調査したときに中町と大成が少しふえていたのですが、たまたまここに来ている2人が中町と大成の人なので、それぞれ説明してもらいます。

では中町の現状をお願いします。

【根上地区住民】

中町はかなり大きい町なのですが、婦人会に入る人が少なくて、去年は会員が20名を切りました。それで、町内会長さんとお話ししてもう婦人会はなくすという方向でしばらく動いていたのですが、やっぱり、本当になくしてもいいのかと、もう一回町内会長さんと、町内の役員の皆さんとお話ししました。それで、あと1年だけ町内会のほうからもバックアップするから、どうにかして人をふやせないかとなり、動きました。しかし、町内会はあまり動いてくれなくて、私たちみんな運動会とか友達つながりで、とりあえず4人新しく入ってもらいました。実際のところ、中町の婦人会は人数が少なすぎて活動できない

状態なので、新しく入ってきてもらっても、その人たちに対して婦人会って何だろうみたいな雰囲気になってしまうのが怖いです。また、せっかく入ってもらったけど、来年はもう全員が会長経験者で、2回目の会長をしたいという人が誰もいません。やっぱり存続していけないのかなと、今もう一度話し合いを重ねないといけないところです。

【根上地区住民】

大成町は、3年前の平成26年に71人だったのが平成29年には100人で、大体30名ほどふえています。これは、町内会のほうに話が行って、町内会長が発起人みたいな感じで、35歳以上の人は婦人会に入りましょうという、回覧を回したのです。自分から入りますと言ってくる人はなかなかいませんでしたが、そのとき、ちょうど保育園の保護者会の会長さんになっていた方がたまたま婦人会の役員でして、その方が保育園のお母さん方に「お母さん方も子育てで一生懸命で、町の人顔もわからんし（入ったら）楽しいよ」という感じで、30名に呼びかけてくれたのです。回覧も回っていたし、運動会や春のスポーツフェスティバルのときに私たちも入っているから一緒に入ろうみたいな感じで後押しをしたら、その30名ぐらいが入ってくれたのです。年会費は1年間は不安でしたが、一応2年目の会費はいただき継続で皆さん入っています。

【根上地区住民】

でも、大成もやっぱり町内会長の協力があり、そのときに声をかけてくれたのでそういう流れになったところがあるので、やはり町の人協力は大きいと思います。

【司会】

先日、婦人会の市の交流会があり、そのときにグループワークをしました。まとめまでは間に合わなかったのですが、そのときにも、いろんな課題とか会員をふやすにはどうしたらいいかということで（話し合いました）。しかし、まず校下ごとにカラー（雰囲気）が違い、それにびっくりしました。根上地区は本当に活発で、楽しくやるのをメインで進めていると思うのですが、本当にその校下で雰囲気が違うので、同じ色にして引っ張ろうというわけにはいかないかなというのを感じました。

一番思ったのは、辰口校下に関しては、市までつながらなくても、町内会で潤っていればいいみたいな感じで、1人、2人減るのではなくて、町会単位でやめていきます。それも、私たちみたいな寺畠の小さい町会が減ってもたかが知れていますが、大きい町会が減っていきます。そこがまず欠点です。しかもそれを後々聞くと、町会長さんが全然知らなかったというところもあります。そういう部分では、婦人会と町内会がつながっているの

が私は一番いいのではないかと思います。

【辰口地区住民】

私は辰口校下の辰口町なのですが、昔は本当に何十人もいました。今現在、女性は200人近くいますが、実際婦人会に入っているのが19人です。私が辰口町会の婦人会の会長をしたときにも、私でほぼ役員が一回りする状況で、みんな役員が終わったらやめていく状況だったので、町会長さんにどうしたらいいかお願いしたら、今の婦人会は多分なくなるだろうと（言われました）。でも、やっぱり町会としては必要だから、婦人会という団体とは別に女性会というのを立ち上げていただいたのです。それは、もう25歳から既婚、未婚に関わらず漏れなく登録されて、会費もなしで70歳まで入っているというものです。それだと、もう普通に町会の消防とか班長さんとかいうのと一緒に、必ず班から1人は役員として出ます。漏れなく、いやでも何でも絶対に出るという感じで、一応女性のつながりという会を立ち上げてもらいました。

その中に、婦人会も中にひっくるめられないかと、今の婦人会がしていることをちょっと組み込んで女性会を立ち上げてもらえないかと言いましたが、やっぱり市に出て行くこと、役員として市に出るとか校下の上のほうで仕事をするのが嫌だからみんな婦人会を抜けていくのであり、そういうことを組み入れたら成り立たないだろうと言われました。それで、仕方ないので、一応今は別個の形で辰口町会は女性会があり、婦会もどうにか細々とやっているという状況になっています。たまたま町会の会長さんがそういう意識で、やっぱり女性のつながりもないといけないし、町会とのつながりだけはしっかり持っていてほしいという意識があった方なので、何となくそういう団体としては別の形で生き延びている形です。

【市民】

だから、町としては、公民館の行事とかお祭りとか地域のそういうことを助けてくれる女性がいるだけでいいという考え方が主流ではないけれどもあって、うちも校下の行事とかは楽しく参加してもらって自信はあるのですが、それぞれ町によって負担が全然違います。昔の中町だと、中町のお祭りのときに少人数の婦会の人々が焼きそばを焼いているのを、会員ではない人が食べにきます。でも、町内会としては、婦人会じゃなくてもいい、焼いてくれる女性がいればいいという感じで婦会をうまく使っているだけのことで、何かそれを聞いていると、違うのではと思います。防災のこととか関わるのならなおさら、婦会に加盟してくれたらすごくいいなと思うのですが、そうもいかないですね。

【辰口校下住民】

結局、女性の意識もそうですよね。つながりたくない、役員になりたくない。

【市民】

だから、市のほうから「女性の意見を～」とか言われた時に、では婦人会から、となっても、婦人会に（女性が）全員加入しているわけではありません。それこそ辰口でいう一部の人しか入っていない婦人会（の意見）が、女性全員を代表した意見なのかといたら絶対そうではないのです。でも、市長とこういう話をしたりできるのは、婦人会に入っているからできることであって、私たちの言葉がそのまま市長の耳に届けられるのも婦人会に入っているからだと思うのです。婦人会に入っているメリットが感じられないというのが、今の実際の婦人会の人たちの声だと思うのです。

【井出市長】

まず、きょう具体的にこうしたらいいという案を持ってきてないことを、皆さんにお知らせして次の話をします。

今、やっぱり婦人会に入ることでのメリットを感じてもらえるよう、我々は何をやっていけばいいのかなと最初は思っていたのですが、あるタウンミーティングで、ある方から、婦人会に入っているでもいいけど、入っていると、こんな会があるからどうかとか、こんなこともあるから出てきてくださいって言われるのが嫌ですと言われて、迷ってしまいました。

最初、その婦人会の活動をもっと活発にすれば、何か出たくなるようなそんな行事やイベントの特典を考えればたくさん入ってもらえるのかなと思っていたのですが、どうもそうではないような雰囲気、きょうは、その辺のお話を聞きたいと思いました。

それから、根上、寺井、辰口でそれぞれ違う、もっと言えば、根上の町内でも大浜と大成と中町で違います。寺井も、辰口もです。それを一緒にするほうがいいのか、それとも、やっぱり町単位で個別に考えていったほうがいいのか。そうなってくると、それぞれの町会、町内会長さんを入れて話をしたほうがいいのか。

【市民】

その（町単位）ほうがいいと思います。

【市民】

町会長さんに、強制的に、昔のように各世帯に1人女性会に入るというのを要請してもらったほうがいいのか、それとも、そこまで強制するのはちょっと大変だから、一応自分

たちでやることはやるのか。自分たちの町も、ここ五、六年でほぼ役員も尽きるのが目に見えてわかっているのに会員募集はできるのかと、そういう意見だったのです。小長野町は、年齢幅がありすぎるのです。まず定年がありません。この前、何歳から入ったらいいのかとか、そういうアンケートをしたのですが、（結果は、）やっぱり、25歳ぐらいがいいのではとか、定年はあってもなくてもいいみたいな感じでした。その中に、なぜ婦人会に入れないのか（という設問）があって、子供を育てているから時間がないとか、中学生とか高校生になると部活の送り迎えをしなくてはいけないので参加できないというのがありました。もう一つは、極端な話なのですが、別に女性会なんてなくてもいいのではというのもしっかり意見の中にありました。会員の中でも、会員募集をしたらいいのか、したらだめなのか（という意見がありました）。存続できるかわからないのに会員募集はできません。それで、ある程度の年齢の人たちだけを呼んで、これからどうしたらいいのか今後のことを話したらいいのではないかと、いろんな意見が出たのですがまだ保留になっています。

本当に難しくて、町会長を交えて話をしたほうがいいのか、最終的にはそこに尽きると思います。市のほうから町会長にそういう呼びかけとかをしてもらったほうがいいのかというのやはりありました。

【井出市長】

きょうは、結構いろんなことを調べて来ました。県のほうからも情報ももらいました。何で婦人会がそもそもあるのかということ、それから、今、何であるべきなのかということを知るためにいろいろな資料を読みました。すると、基本は女性の活躍の場をもっと皆さんに感じてもらうことと、それから、活躍の場を提供するためなのです。そうなるべくと、皆さんに集まっていただいて、勉強や研修、それだけではなく楽しいこともやりながら気運を高めて本当に社会の中で活躍していこうというのが柱になります。県内では、能美市が一番盛んみたいです。

【市民】

能美市は、若いのです。

【井出市長】

そうなるべくと、やっぱり今言った活躍の場をもっと広げる方向で、婦人会に入っていて楽しいということを能美市の女性に伝えていってはどうかというのが私の結論です。町内会長さんに協力をもらうのも必要だと思うのですが、何とか女性に集まってもらう手

段を考えて、それは誰かの講演会なのかコンサートとか。男性だったら飲み会なのかもしれませんが。そんなことなのかなと思うのですが、どうでしょうか。

【市民】

能美市の場合は年齢が若いのです。早くやめるといふか、定年があるところもありますが、それがあつぱつかりに若い人は入らない、上の人たちは早くやめてしまうというのがその会員減少の原因の一つにあります。石川県でも能登のほうでは、高齢の人たちが現役で頑張っているのに、私たちは早くやめてしまうというしきたりみたいなものがあつぱつあるので、そこも少し改善すべきです。

私も会長職が終わつたら、もうそろそろ定年かなと思います。いづらひです。

【市民】

定年制があつぱつこと自体、おかしいです。

【市民】

でも、それこそもう町内で決まつていふものであつぱつて、それを今から……。

【市民】

大浜の婦人会では、定年制を去年か一昨年の総会で廃止しました。その定年の年に達した人は何とかが会員になりました。

【市民】

ミレニアム会員ですかね。

【市民】

もう役員はしなくていいから後身の指導や、お手伝いのために元気な限り残つてもらふ感じて定年制を廃止しました。食事会とかそういうことには都合が許す限り参加で、今、1名かな。また今年、2名になるのかもしれない。定年制を廃止してて感じたのが、親の介護がなく子供も自立していふ（といふたような）、自分の時間が一番使える年代の人が、能美市では次々定年になつてやめていふきます。根上では定年制を廃止していふと各町内会長さんに言つていふところてです。全部が廃止にできたかはわからないのですが、55歳の定年があつぱつとしたら、そんな定年制は廃止していふといふことは言つていふます。それこそ55とか、50歳て定年だと、私たちは、残る人がいなくなつてしまひます。

【市民】

やはりまず自分たちがどうしたいかといふことをもつと足固めしないといふけません。今ここにいる人たちだけで、どうしたらいいといふつても、なかなかそれが、ほかの人に伝わ

りません。イベントがあるごとに婦人会ってこんなところという、そういったものがないまま、定年をもっと上げると、何でやめられないのかという声も上がってきます。

かといって、自分たちではどうにもならないところまで来ているから、今こういった会議を開いてもらっているというのも、重々わかるので、何か行政からアドバイスがほしいと思います。でも、自分たちでもうちちょっと、この間みたいなグループワークを広げて、やってみてもいいのではないかと思います。

【司会】

先週、交流会をしたときに、活発な意見が出ました。それぞれ「婦人会について語り合おう」というテーマで、婦人会の現状についてや、今困っていることや、これからの婦人会の目標とか展開とか要望をグループごとに分かれてグループワークしたのです。

市長、このグループワークで出た意見の見方なのですが、ふせんの色によって寺井、辰口、根上の色分けがしてあります。海に近い根上が青色、寺井が黄色、山に近い辰口が緑です。枠外にあるのは執行部とか役員をしてよかったことです。悪いイメージの質問ばかりになってしまったので、やってよかったと思えることを書いてもらいました。

【井出市長】

それで、どんな意見がありましたか。

【司会】

やっぱり婦人会員の減少というのがどのグループにも出てきた話題というか、テーマというか、その話に尽きるみたいな感じでした。なかなかふえないし、減る一方ですと。

【井出市長】

こんなことをしたらどうかという提言はありましたか。

【司会】

それは要望のところになるのですが、小さい子供がいても入れるように、子供を預ける場所を確保できればと。

【井出市長】

皆さん、グループワークで出た意見は把握されていますか。

【司会】

一応、発表はその場でしています。

【井出市長】

意見の内容を読んでもらえますか。

【市役所職員】

- ・子供を預ける場所を用意する。
- ・子育て世代が参加しやすいように。
- ・楽しめる女性会にしたい。
- ・町内の婦人会の内容は大体わかるが、校下では何をやっているかみんな知らないなので、もっとわかりやすく公開する方法はないか。

- ・会員を集める工夫。
- ・各校下、町内会の定年の時期を少し遅らせてもらう。
- ・PTAから女性会へ。
- ・視野が広がる。
- ・市長のタウンミーティングで発言して市からバックアップしてもらう。
- ・町内によって会員をお試しで勧誘、1年間は会費をとらない。
- ・各町会の合同行事をする。
- ・子供の同期のママたちから誘ってもらう。
- ・年度がわりに個人的に誘う。
- ・年間行事などの紙を入れる。
- ・誘うタイミングを考える。
- ・年度末に1年間のご苦労さまプレゼントをあげる。菓子箱などなど。

【井出市長】

大体わかりました。

【市民】

出てもらった人には楽しんでもらう自信があるのですが、出たくないとか、足を運んでくれない人には婦人会のことを理解してもらえないのかなと思います。

【井出市長】

例えば、まず出てきてもらうきっかけです。一番のメリットというか、誰かのコンサートや、講演会を開き、それは婦人会に登録した人しか聞けませんよという形にしてまずは来てもらいます。そして、その講演が終わった後に、婦人会の今のおかれた現状などを少し話して共有したら出てきてもらえるかもしれません。

【市民】

女性会だけが聞けるとなると、逆に、行ったら女性会に入れられるのではないかという

懸念が生まれます。九谷町ではもう13人しかいなくても、集まりたい人が集まって、仲良くしようということです。ずっと九谷町だけの女性会のレクリエーションを十何人でやってきました。しかし、それではやっぱり会員がふえないのが課題でした。

今回は運動会とかソフトバレーボール大会とかでつながったママの中にアロマをやっている方がおり、その子が講師になって、女性会のみレクリエーションではなくて、九谷町の女性ならどなたでも参加できるように、町内会のイベントとして試みようと思っています。開催は12月なので今チラシをつくっています。町内会の人には材料費だけの、1,000円、会員さんは500円の助成をして500円という（料金を設定しました）。会員の特典がわかるような形で全戸回覧します。その結果はまだ来ていないのですが、九谷町のあの方が講師だねとか、あの子が講師になるから来てという形で、とりあえず、女性会のイベントじゃなくて、楽しいから出てくる、会員だと安くできるなら会員になってもいいかなという試みで今やろうとしています。

女性会に入ったらこれができるというより、女性会員だけを集めるのではなくて、つながることを目的にした方が（いいのでは）。私たちは逆に、活躍の場がふえることのほうがおっくうだと思ったのです。なので、とりあえず楽しかったら集まる。入って特典があるなら入ったほうがいいという発想です。

【市民】

それ、たくさん企画しなくてはいけないですよね？

【市民】

そうなのです。だから、今それを役員だけがすると大変ですし、今回、第1回目なのでわからないのですが、女性会の会長さんとか役員だけがするのではなくて、役員でなくてもぜひレクリエーションはすればいいし、食事会も行きたい人が企画すればいいです。そういう形に変化させていけばいいかなと思います。

【司会】

多分、各町でそういう取り組みはしていると思います。きょうは市の婦人会としてこうして3町集まっています。その統一をしなくてはいけないのかどうかというところも一つのネックだと思うのです。各校下に任せるのか、市としては、ここまではやっぱりレベルを合わせると決めるのか、そこをみんなで話し合うべきだと私は思います。

【市民】

大長野は能美市の中でも大きめのか割と世帯が大きい地域なので、大きい地域の

悩みを一つ言います。皆さんの話を聞いていて、やっていることはすごくわかります。大長野も大きい割に会員数はすごく少なく、毎年ふえてなくて、それはもう10年も15年も前からずっと課題です。毎年役員さんが会員をふやすためには（どうすればいいか）と、クリスマスのアレンジメント教室を会員だけではなくて、ほかの人にも声をかけて、会員は特別価格、そうではない人は少し高めでやっています。バス旅行を会員ではない人も誘って、会員さんは少し安めだけどバス旅行と一緒に行きませんか、楽しいですよと誘うなど、皆さんが今言われたようなことを毎年しています。

そして、大きい地区の悩みとしては、女性会に入ったらバス旅行に楽しく行けるかもしれませんが、大きい町なので町内でもグループができて、（女性会とは）別に仲のいいお友達が皆さんいます。保護者で何十人といいます。だから、別に女性会に入らなくても仲良しのお友達でバス旅行に行けるし、何とか教室もできます。女性会に参加しなくても運動会とか祭りとか、楽しい行事に皆さん参加してくれて、すごく盛り上がるのですが、参加するのは好きだけどお世話はしたくないのです。そのお世話イコール役員で、役員はしたくないけど参加するのは楽しいからします。そう言われたときに、役員をしてほしいと無理に言えないし、役員するなら入らないわと言われます。その葛藤が毎年あります。大長野はそれが現状で、その壁を乗り越えられません。大きい地区の悩みです。

【井出市長】

多分、それが共有している悩みで、冒頭私が言ったみたいにたくさんさんのメリットを皆さんに感じてもらえるようにイベントをやりますよと言うと、それはノーだと言われる人が多いと思います。だから、イベントをたくさんやるのも一つの手なのかもしれませんが、それを嫌う人のほうが今は多いような気がします。

【市民】

そうです。それが現実です。それをみんなも実感でわかっています。わかっているけれど、そこをどうやって引き出してあげればいいのかもう（わからないのです）。それで、今年の役員はちょっと趣向を変えて、普通大長野の女性会はバス旅行といけばな教室とビアパーティーと、楽しい行事を3回か4回して終わりなのですが、月1回で何かやろうとあって、着付け教室をしたり、ヨガ教室をしたりしています。予算もないから安く講師を引き受けてくれる人を探してきて、趣向を凝らしてやりました。しかし、みんな参加はしますが会員にはなりません。そうしたら、もうどうしていいかわからないのです。

【井出市長】

だから、そんなことも乗り越えて、まず行ってみたい講師を呼んで、来てもらうということにはなりませんか。

【市民】

やってよかったねという感想は役員してくださった皆さんから年度末に必ず出ます。でも、それは役員をしてくださった人が自分の経験であれが楽しかった、これが楽しかったという1年の総まとめの発表です。私は細く長く、そういった人たちが1年ローテーションで何人かにつなげていければふえていくと思うのですが、1年こっきりだったりするので、つらいなと思います。

中学校のときの保護者、子供の友達のお母さんと久しぶりに会えたのもそのおかげという言葉もいただきます。しかし、それがつながるかといったらそうでもありません。個人の選択肢が多すぎて、本当に婦人会の価値が問われているのだなと思います。だから、自分たちでもうちょっと考えて、何かしないといけないのかなと思います。

【市民】

多分、婦人会を立ち上げたのは、女性の活躍の場もそうかもしれないのですが、大もとは地域に根差して女性みんながつながろうとしたところから始まっていると思うのです。ただ、今、この時代なのでほとんどの女性が仕事を持ち、その場で活躍していますし、自分で車も運転するので、自分の行きたいところ、例えば趣味のところとか、何かしたいと思うときには、別に近所でなくても、遠くても、お金を出しても行きます。そういう状況に今の時代はなっているので、婦人会で何かをするというのがどこまで魅力があるのかです。自分たちが意識を持って、それをどこまでPRできるのかというのがすごく難しいのです。私も今、この11月、12月って毎月のように辰口校下で行事を企画しているのですが、本当にこんなに企画してどうしてこれだけしか集まらないのかと思います。

ただ、本当に興味がある人は会員ではなくても意外と声をかけてくれます。しかし、せっかくだから会員の方のメリットを、と思って1回お断りしたことがあって、今すごく後悔しています。校下に入っていない町会でも、個人会員とかそういう形でふえればよかったのかなと思います。皆さん、目がいろんなところに向きすぎているので、自分のところに引き入れるのはすごく難しい状況になっているのだなと思いました。

【市民】

楽しいことだけを提案しても、今ほど言われたとおり、好きなところに行けばいい。い

ろんなところでいろんなイベントをやっているんで、参加だけすれば楽しい。お世話をやるのが嫌ということです。本当に自分の好きなものだけしか町内の行事に参加しません。町の人とつながりたいという思いがないと会にも入らないのかなと思います。その町の人とつながりたいと思うのは、子供が小さいときなど、誰かに助けてほしいと思うその時期か、もしくは、もう自分のすることがなくなった、暇だわっていうときにおしゃべり相手が身近にほしいという、その時期しかないような気がします。子供が活発な時期って、とにかく子供に振り回されて近所の人とのつながりなんか別に要りません。子供がつながっているところでつながれば、もう町内会の世代の違う人たちとつながるメリットがなく、逆にそれは大変なことがふえるだけという感覚のような気がします。私が町内の人とつながりたいと思うのは、町内同士で助け合いたいという思いがあるからです。ちょっと自分に時間があつたときにおしゃべりもしたいと思います。同世代の人たちと集まる場がほしいと思うから町内の人とつながりたいと思うのですが、やっぱり、子供が小さい時に近所の人、誰でもいいから助けてほしいというときにつながっていないと、若い子連れの人たちは入ってきません。何もすることないし女性会でも入ろうかという時期にはもう定年です。そこ（中心となる年代）が、女性会にちょうど入らない年代だと思うので、もっと小さい子がいる時期など、助けのほしい時期にもっとつながる、そういう仕掛けがあるのかなと思います。

【市民】

婦人会に入ろうかなと思ってくれる方の、選ぶときの基準って何なのか考えるときに、やっぱり、これに入ったら楽しいかなということになると思いますが、どうでしょうかね。婦人会にそんなことを求めて入っている方はいらっしゃるのかなと思います。

【市民】

中町では、来年は解散みたいなことが話されています。でも、そういうのはどうなのかなと思うので、この前の役員が集まったときに、今年新しく入った人も何人か来てくれたので、一応お話しをしました。子供が一段落したら入ってみたいなという人は、町の人とお話ししていきたいので入ったと言ってくれました。そんな話をいろいろしているときに、もしかしたら来年4月からは（婦人会は）ないかもしれない、それならどうしたらいいのだろうと（いう話になりました）。中町は何年も前の町内会長さんからずっと相談をしているのですが、中町の場合は2年ごとに交代するので、話が煮詰まる前に引き継ぎもなしに新たな町内会長さんになって、またそこから始まります。ずっとその繰り返しが続い

てきたので、だめなのかな。とにかく自分で何かしなければならぬ、どうしたらいいの
だろうとなりました。そして、とにかくみんな仲良くしようということで、今度から月1
回、平日の晩で時間の空いたときに、お茶会をすることになりました。全員が毎回集まら
なくても、集まれる人が集まっているんな話をするにしましたのです。その中で、若い子
たちから「中学の制服が小さくなったので誰か持っている人いませんかね」とか、そんな
話もいっぱいあります。年配の人は「言ってくれたら持っているのに」と。今まではL I
NEで動員のお知らせを回していましたが、やっぱり話をするのが大事なのかなと思ひ
ます。

【市民】

今、みんなそうです。

【市民】

済みません、行けませんと返ってきます。

【市民】

10人足らずの会員の中でさえLINEです。やっぱり顔と顔を合わせてないと、ほとん
ど「参加できません」です。

【市民】

前、私が役員をしていたときは、行事の案内は必ず対面で渡してと言われました。

【市民】

「今度こんな会があるので参加してね」と言ってチラシを配るよう言われていたが、
今はポスティングで、まず対面もありません。

【市民】

それも時代の流れなのかもしれませんが。

【市民】

年配の人がそういうやり方はおかしいのではないかと思います。そういうのは便利だけ
ど、やっぱりみんなで集まり、何でもいいから話をしたいという気持ちがあります。

【市民】

話さないことには思いは伝わらないと思うので、各校下でもう一回こういうグループワ
ークを、町会長さん、ほかの町の人たちも入れてしてはどうでしょうか。それは町単位で
お任せしてもいいのですが、思いを引っ張りだせるようにして、こういう理由でみんな参
加しないということが本当にデータの的にでもわかれば、こっちも納得もします。グループ

ワークをやるのはいい手かなと思います。この間の2時間でもこれだけ出たので、気心が知れていいかなと思います。

【井出市長】

「辰口じょんから」って今婦人会で各町内集まっていますか。

【市民】

その婦人会というのはもともとありません。町会になりました。

【井出市長】

町会で参加するのですか。

【市民】

うちの町内なんかもそうなのですが、ちょっと前まではじょんからに出ないといけなから入らないということもありました。

【市民】

踊りたくないのです。自分の子供が小さいときに、やっぱり子供と一緒にお祭りを楽しみたいからです。でも、婦人会に入ったら、子供をおいてじょんからで踊らないといけません。だから入らないということでした。

【井出市長】

何か集まるきっかけで話し合ってもらえればいいかなと思ったので、じょんからの踊りの練習をしているときはどうかと思ったのですが、そうではないのですね。

【市民】

だから、ここに集まっている人たちと入らない人たちの、根底というか、考え方に、ちょっと語弊あるかもしれないのですが、温度差がありすぎます。役員をしてもいい、女性会が楽しい人は、もうみんな入っています。入らないという人はもうどんなこと言っても入らないし、役員もしたくないし、楽しいかもしれないけど、私たちは自分たちで楽しいことができますと、ここの線が超えられない大きな溝になっています。それでもお祭りとか運動会とかは来ていますよねと言うと、楽しいことは参加するけど、そっちのほうには行かないよと言われる。ほんとうに、入らないという人は、考え方が大もとから違います。

【市民】

煩わしいことはしません。

【市民】

さっきの、対面でチラシを渡してつながりを感じるというのも、それをすんなり受け取ってくれる人もいれば、全然そうでない人もいます。何でこんなことを今どきやっていると言われると、もう二律背反です。どちらがいいのか、本当に難しいのです。だから私は両方やればいいと思います。

【市民】

私がこちらにお嫁にきた時、世代交代というか、あなたが変わりに今度から婦人会に出るのよという、そういう意識が強かった時代だと思います。しかし、今はそれがなくて同居もままならない家庭もたくさんあります。その意識のずれということもあると思います。入って当たり前というか、何も知らない、来たなりにもう婦人会に入ります。私なんか入ったとたんに当番みたいなのがきて、それが婦人会の役員だということも知らなくて、家に帰って、それが役員なのよと言われました。でも、順番だったと思うのです。それを断れず、いまだにずっと来ているのですが、ここに来て、役員は大変なのですが、やっぱりそれなりの楽しさもあり、婦人会というのはすごくいいという意識が高いです。役員になりたくない、役員にならない会員のほうが、「いつまで婦人会に入っていないなくてはならないの」と、（婦人会がいいという）意識がないのではと思います。嫌なのだけど、なってしまえばそれなりの知識ももらえるし、つながりもあるのですが、そこに来るまでの会員と会員ではない人の差がありすぎるのかなと思います。

【市民】

先ほどおっしゃった婦人会以外の小さいグループですが、そのグループ同士の横の交流とか、そういうのはあるのですか。

【市民】

ないですね。自分たちの仲のいい人たちで楽しめればそれでいいのです。

【市民】

年代幅とかはあるのですかね。

【市民】

いえ、本当にママ友です。本当は、その人たち、自分たちの小さいグループしか知らないから、ほかの人たちともっとつながれば、多分楽しくなるし知識も広がりますよね。例えば、高校受験とか大学受験とか経験した人たちの話も聞けるし、もっと自分の知りたい情報とかも知れると思うけど、そこまでまだ情報が必要じゃない人たちは狭い世界で十分

楽しいし、会話も盛り上がれば楽しいのです。つながるきっかけがあればいいのですが。さっきも言ったとおり、大きい地区は（難しいです）。例えば、小さい地区やったら少人数の二、三人で集まっても話題も尽きるだろうし、ではほかの人たちともつながろうとなるかもしれませんが。

【市民】

小さくても大きいグループになります。

【市民】

満足するのですね。

【市民】

そうそう、満足しています。その人たちをゲットできればこっちのものなのですが、そのゲットがなかなかできません。

【市民】

というか、婦人会というそういう団体に必要性を感じていないです。

【市民】

さっき私も、勧誘するときは旦那さんを通じてと言っていたのですが、男の人の感覚と、あと町会の人婦人会に対する感覚って、婦人会が持っている婦人会というものの感覚と全然違います。私は当たり前に入れと言われて、ここに住むのだったらそこに入るものだと思って入りました。うちは同居だったのでお姑さんに言われて、そうですかと入りましたが、今はそういうお姑さんもないし、逆に、うちの近所は、定年がないのでお母さんはずっと入り、お嫁さんを入れないという、そういう人がいるのです。栗生は50歳になったら幹部して、その後準会員になるのですが、準会員になったら幹部もしなくていいし、いろんなボランティアもしなくていいです。だから、（お嫁さんの）勧誘に行ってもうちの子、金沢勤めているのでと言われ、もう本人に話が行かないのです。

【市民】

壮年団もそうになっていますね。

【市民】

だから、そういうときは旦那さんをつかまえて、運動会のときとか、「うちの班もこれだけしか人がいないので、その奥さん入れて」とか、運動会で走ってという勧誘と一緒に婦人会に入ってほしいみたいな感じで勧誘すると、少し（入ってくれます）。やっぱり旦那さんが理解してくれないと、入ってくれません。みんな家族を理由にして、直接言っ

てもうちの人があれだし、子供がどうやらだしと言います。旦那さんが納得して、町のことでだから手伝ってあげてと言ってくると、全部ではないですが割とすんなりといきます。そこの意識の差を縮めないといけません。やっぱり町会の人との話し合いとかそういうのが大事なかなと思いますね。

【市役所職員】

僕たちの世代は、ほとんどそういうのはエスカレーターで入りました。知らない間に消防団に入ったり、気づいたらもう入っていたり、それが当たり前のときで、何気なくある中で育ってきました。市長がよく言うふるさと愛、遠くの親戚よりも近くのご近所さん。私は今の町会にいてよかったなと本当によく思うのです。今の、若い人は、そういうのを必要としていないですね。そういうのをもっとわかってもらえるようなことができれば一番いいと思います。今、何やっても、そこに入ったらおもしろくないとか逃げていくばかりです。何かふるさとというのか、住んでよかったなと思えるような形にもって行くと長続きするのではないかと思います。そもそも婦人会とか壮年団っていうのは社会福祉が目的だと思います。損得なしの、私利私欲というか、メリット、デメリットではなくて、例えば大浜のために何かしなければとか、そういう気持ちにならないとどうしてもだめだと思います。これは皆さんご存じだと思うのですが、何かそういうことを思わせるようなことが何かできたらいいのではないかとはい思います。それが何だと言われると出てきませんが。

【市民】

本当に婦人会ってPR、広報活動が下手だと昔から言われています。何かさせられていることばかりが前面に出てしまっています。各町でもそうだと思うのです。祭りでは何かさせられた、しているとか、婦人会に入ったら何々に出なければいけないということがあると思います。だから、もっと楽しいことを発信するように私は心がけています。大変だったことを別に言う必要はないし、自分の町内は役員になっても楽しみながら、根上の校下だったら執行部になった人たちが、みんなが集まったときに楽しかったことを次の会長さんに言います。ひどかったことよりも楽しかったことを伝えるというのは今まであんまりなかったと思います。出て、そこで楽しかったことを広めていってもらえれば、もっと理解が深まると思います。

能美市の婦人会だけではなくて、全国の婦人会のPRも下手だなと思います。全国の地婦連（地域婦人団体連絡協議会）という新聞のようなものが回ってくるのですがかた苦し

い文章で、いまだに何か難しいことやっているなという感じで、ちょっと雲の上というか、楽しい感じがしません。根上の広報でも文字よりも写真主体というか、みんなに楽しんでいることを見てもらってPRするように心がけています。それだけで会員がふえるとは思いませんが、婦人会に入って楽しんでいる姿をみんなにもっともっと見てもらいたいと思います。新聞とかケーブルテレビとかをもっと使って、楽しいことは発信していけばいいと思うのですが、新聞社は市の行事しか載せないと言われました。校下のそういうことは載せないと、そんなことを前に言われました。

【市民】

そんなことはないと思います。ただ、写真が載らないだけで、記事は載ります。

【市民】

だから、もっと発信していくようにしていけばいいなと思います。

【井出市長】

そういうPRということからいけば、例えば「広報のみ」に皆さんを出すことは可能ですし、「nomi」チャンネルの「GOGO PR」とか、何か特集を組んでとテレビ小松に言えば、受けてくれると思います。もしそんなことでよければ、我々もバックアップしますよ。

【市民】

一つ質問です。校下独自で行事がありますが、辰口がすると、大きい団地が入っていません。松が岡、緑が丘、和光台。抜けていった町会ももちろんあります。そういった方たちに周知というか、広報活動をするときに、一番手っとり早いのは町内放送かなと思いますが、放送は校下単位でできますか。いつ幾日に衣装展示会やりますとか。

【市民】

町内単位ではできますが、辰口校下全域に流せますか。

【市役所職員】

例えば、辰口校下の中のどこどこ地区、どこどこ町会というのはできませんが、校下ではできます。

【寺井校下住民】

衣装展示会とか放送してほしいと言ったら、市になってからは、そういう利益が出るようなものはないと言われました。

【井出市長】

調べます。

【寺井校下住民】

大分前の話なので変わっているかもしれませんが、1回、それを言われたので、それからは寺井なら寺井、末信なら末信とか、そういう町内会に頼んで流してもらえるところは流してくださいというお願いはしています。

【辰口校下住民】

もう目だけではなくて耳にも入ればいいし、口で伝わるのもいいし、ありとあらゆることを使えばいいなと思うのですが、そこで市のほうで縛りがかけられると、何も動けなくなってしまう。

【根上校下住民】

婦人会のそんなのは、別に利益とか関係なく流してくれるような感じにしてもらえばいいのですが。

【井出市長】

調べて、確保できるように改善します。

【寺井校下住民】

でも、貸衣装はやっぱり利益が出る一応商売だからということ。

【根上校下住民】

あくまでもそうかもしれませんが、活動費のための、利益といっても自分らが潤うためにしているわけじゃなくて、活動費のためにしていることです。

【市民】

そこも公です。

【根上校下住民】

それなら、そういう利益という縛りをここで市長さんの頭の中から外してください。

【寺井校下住民】

まあ、きれいなことばかり言っているとあれですが、私たちの活動の資金というのがやっぱり貸衣装であったり祭壇であったりします。その資金が尽きるとこれからの活動もできなくなります。今、辰口もかなり、年々厳しくなっている状況です。きれいごとばかりも言っていられません。やっぱりそういうところも私たちPRしていきたいです。

【市民】

これだけ活動しているところは珍しいのですが、そういう資金源があるからです。普通の、能美市以外のところは自分たちでそういう事業をしていないので、本当に、町とか市とか県からの補助金だけで活動しているので、自分たち独自のお食事会に行こうと思ってもほぼ全額自分負担とかそういう感じになります。能美市がすごいって言われるのは、それだけ資金があって活動しているからだと思います。

【市民】

そして、校下に事務員がいます。事務所があります。まず、石川県でも、ほとんどないです。能美市はすごいねって言われます。

【市民】

全国的にもありません。

【市民】

ないですね。事務員さんがいるところはあるけれど、能美市だけで3人もいます。それは、各校下ごとに行事が違っているのですがどうしてもなのですが、すごいねとは言われます。

【市民】

すぐに会員増にはつながらない話なのですが、いつも子育てのほうに関わっているので、そこからの目線で言ったら、大変楽しく子育てしているお母さんはいろんなところに余裕があります。人と関わって助けてもらいながらとか、お互いに助け合いながらされている方って、その後、とっても幅が広がって自分でどんどん楽しいところに出ていくし、地域ともつながっていきます。だけど、最初の段階で本当に誰にも頼れなくて孤立して子育てしている方って、どれだけアプローチかけても楽しもうとしないというか、つながろうとしません。そこに大きな分かれ目を感じます。本当の最初の一步です。嫁いできたときが分かれ目になるような気がするので、そのときに誰かとつながって、ご近所の方がちょっと声をかけてくれたりとか、そういうつながるきっかけがあったりとか（あればいいと思います）。能美市はすごく子育てに手厚いです。いろんなところに遊びに行く場があって、来てみたらすごく楽しいとか、ファミリーサポートを通じて、広場を通じて広がっていくお母さんというのはどんどん倍増に楽しんでいっています。そういう方は、地域愛があり、それこそ町に貢献、奉仕作業もやろうという気になります。町の人とつながろうとします。しかし、そういう時期に、嫁いできたときに、子供が小さいときにつながらないと、つながろうと思うのは大分後というか、意識改革がないとありません。

【市民】

そういう子育て世代の人を巻き込んで、取り込んでくれるのって、自分たちの世代ですよ。だから、自分も周りの人たちにそういう発信をしていけるように、今度からそういう年代の人を取り込んでいきますか。そうしたら楽しみですかね。

【市民】

(子育て中は、) いっぱいっばいで、申しわけないという気持ちもあっても意外に助けてとは、なかなか言えません。ご近所でおじいちゃんにうるさいという目で見られます。やさしい人はいっぱいいますが、中には冷たい顔をする人もいます。公園でボールが飛んできた、車に当たってボール禁止だとか。そういう声をかけられると、やっぱり縮んでいってしまうし、いいよって、助けてくれる方がたくさんいることが望ましいというか、大丈夫、大丈夫、出ておいでって言ってくると、じゃあちょっと行ってみようかなと思います。

【市民】

そういうおばちゃんたちばかりですよと言ってください。

【市民】

可愛がりますよ。

【市民】

それが出てないのです(外から見てわかりづらい)。助けますよっていう、わかりやすいマークとか、そんなのがあったらいいかもしれません。

【市民】

まず出てもらって感じてもらえると一番いいと思います。

【市民】

子育て時代に親が楽しいと子も幸せ、子も幸せだここに根づこうと思うというか、どこかに行っても戻ってこようと思います。能美市愛につながるし、そうすると町内の人とつながろうと思います。私は独自のこの世界、子育て中のお母さんたちをいつも見ているので、そこが分かれ目だと思います。私もここで楽しく子育てさせてもらったし、能美市の人とつながりたいという思いがあり、いろいろボランティアをしています。ちょっと大変だけどそれよりも得るものが大きいと思えます。しかし、自分がそういう子育てをしていなかったらきっとそう思っていないと思います。町内の人に会いたいなんて思いません。助けてもらってもいないし、しゃべりかけてもらっていないしと思ったら行けません。い

まさに行けないみたいな感じですよ。

【市民】

それって、どうやって声かけしたら出てきてもらえますか？ 私たち、やっぱり保育園の年代のお母さん方に何遍も行ってお話しさせてもらいましたが。

【市民】

世代が違います。やっぱり同年代の人が誘うのと、上からこう言うのとはまたちょっと違うのかもしれない。

【市民】

わかりやすいところというか、私、社会福祉協議会の、親子サロンにいます。親子サロンもずっと細々としていたのです。でも、子育て支援センターはすごく周知されているのですが、親子サロンはまだまだ知られていなくて、ファミリーサポートというものもまだまだ知らない方がいます。しかし、能美市の子育てアプリに、去年くらいから、親子サロンを載せていただいたのです。それからふえだしました。だから、市の情報発信は大きいと思います。

【市民】

アプリを見ている世代もそういう世代なのですね。

【市民】

そうなのです。アプリで調べてくる人がいて、来てみたら、支援センターとはまた別のものというか、場所で、雰囲気もあって、そこが好きな方を取り込んでいるし、支援センターも行きます。どこに行かれてもいいのです。そういう市からの情報を皆さんアプリで調べてきます。でも、まだまだ（アプリの記事だけでは）親子サロンとは何？写真もないし、どういう場所かわからないし、誰がいるかわからないしということで結構ちゅうちょされている方が多いです。だから私は、土曜日に支援センターにも行きます。そこで、私がいるから（親子サロンにも）来てと言うと結構来られます。

【市民】

その人をそのまま婦人会に入れてください。

【市民】

だけど、そこに行くまでは自分がいっぱいいっぱいなので、行くのはいいのです。でも、今お世話できるような余裕はありません。

【市民】

だから、婦人会というのが、お世話しなくてはっていう感覚になっています。お世話できないし入れないって言われますが、楽しむために入ってみたいな感じの婦人会だったらいいのに、そこのイメージを変えていきたいです。

【市民】

ただ、それは各町内の女性会の人が。

【市民】

町内で違うよね。

【市民】

私が今年初めてやったのは、小学校PTAの総会に行って、変な話ですが、見守り隊の話から入りました。見守り隊の方は年配の方です。そしてそれは順繰りなので皆さんもいずれは自分たちの孫の時にはというのもあると思います。その途中段階で女性会というのがあって、町行事にすごく協力するとか、小長野で文化祭とか運動会とか、ちょっとお手伝いは要るかもしれませんが、楽しく皆さんと一緒に過ごすことがまず目的なので、まず、女性会にちょっと顔を出してもらえないですかと言いました。今年初めてだったので、そういうところから歩み出していないと、今言って今という結果はなかなか出てこないと思いますので。

【市民】

婦人会に入ったら、小長野は何か楽しいイベントをしているのですか。

【市民】

楽しいというか、文化祭です。

【市民】

その文化祭が苦痛なのは？文化祭に出ることが。

【市民】

文化祭は小学校PTAの保護者も手伝っています。だから、その延長になるので、何かこうしなくてはいけない、ああしなくてはいけないというのはありません。上の人たちを見習っていくのですが、こうしなさいとかもありません。楽しく関わることができますし、自分たちの子供もみることができることは、もう皆さん承知です。

【市民】

みんな一応楽しくやっている行事の中のひとつなのです。校下の運動会とか町内の運動会

とかも確かに参加率は高いのですが、文化祭になると、ほんと町というか、小学校の子、年配の方がする行事があります。本当に各種団体の人たちが一緒にやってくれて、町のかかわりがあって、そこでコミュニケーションがとれたりするので、そこからまず始めていきます。ただ、今子供を育てているとか、送り迎えがあるとかで、みんな二の足を踏んでいるのは現実です。そこを何とか、その考えが崩れたらいいなというので、今女性会の会員たちが動いています。結果はなかなか出ないだろうと思いますが、それを続けていくことによって少しは動くのではと思っています。

【市民】

それが、もっと楽しいというアピールをしていかないかね。

【市民】

楽しいなんて個々それぞれではないですか。どこに楽しさを覚えるのかというのは。でも、つながるといふか、役員をしなくていいからって、女性会はこんなんだよって私は言えません。各町で違うからです。私、自分の町だけの女性会しか知らないの、例えば、親子サロンとかそういうところに行って（誘ってきて）と言われてもそれは言えないのです。全体を知らないからです。個々の町のことは知らないし、確約として私は言えません。ただ、私たちスタッフは、そういうお母さん同士をつなげて、まずつながる楽しさを知ってもらいます。あとは、いろんな人とつながったら楽しいねという思いで子育てしてもらって、それが自分の町でも隣近所の人とつながったら楽しいのではとなり、その隣近所の人が行くなら、自分はある興味ないけれど私も行こうかなと、とりあえず出ようという気持ちになるように、つながる楽しさを知ってもらうための場づくり、広場づくりをしています。せっかくきょう市の方がおいでしているので、私がこの場でお願いしたいのは、そういうところのアピールをもっとしてほしいということです。つながる場所があります。でも、そのアピールがまだ少なく、福祉のほうにももうちょっとアピールといふか、こんな場があるということ、PRしてほしいです。

【市民】

社会福祉協議会の親子サロンに来ているお母さんたちは、本当に元気になっていきます。しかしまだまだ知られていません。市の方にはそこにもうちょっと、何と言いますか。

【市民】

協力や、PRをしていただくといふのと、やっぱり宣伝していただくのが一番大切かと思えます。

【司会】

きょう、この場ですぐ私たちの案として何か回答できるかということ（難しいです）。ただ、市長さんには生の声として現状を知ってもらいたかったし、市長さんも皆さんがどうなのかというのを聞きたいということでこの時間を設けてもらいました。今、言われたように、会員減少というのは私たちだけが騒いでいるわけではありません。市のほうの力も借りながら、町内会長の力も借りながら、やっぱり地道でも、1人、2人でもいいので（会員を増やしたいです）。私たちの辰口校下では会員が1人しかいない町内会が2町会あります。解散したにも関わらず私は残りますと言って、ずっとその方がしてくれています。しかし、そういう人たちがもうちょっとふやそうかと言っても、町内で拒否されているので（難しいです）。私だけでもという心のある人なので、そういう人を1人でも2人でも（増やせないかと思います）。私は、なくなった町会にもそういう人がもしかして1人、2人いるのではないかと思いますので、町会長を動かしながらでもいいので、実はもう1回復活させたいという気持ちがあります。やっぱり、各校下でこれだけ温度差があって、色も違っているんで、その足並みをそろえるのはここ一、二年では難しいと思うので、また何かあるたびに、こういうグループワークでもいいので話をしながら、少しでもふやしていければいいかなと私は思っています。

市長さんも現場の声を聞いて、市のほうで、今みたいにPRにもう少し力を入れるとか、力を貸していただければいいかなと私は思っています。

【井出市長】

まず、きょうこのまま終わるのも、こちらも何となく気がかりなので、まず「広報能美」に皆さんに出ていただければなと思います。ただ、皆さん入りましょうということだけではPRが弱いので、何か行事に参加しませんかというようなPRの仕方がいいかなと思ってさっきから見えています。何か、婦人団体協議会大会みたいなものを2月の何日かにできますか。どれだけ集まるかわかりませんが。例えば、皆さんでパネルディスカッションをして、そこで婦人会の現状をみんなに訴えるというのはいかがでしょうか。

【市民】

多分、動員かけたら根上は40人ぐらい集められるのですが、悲しいことに、会員というか、今の現役員に限定されると思います。

【井出市長】

その仕掛けは考えてもらうことにして、「広報能美」に出すときに、ただ婦人会は楽

しいところで、それから現状をそこで語っても、おそらくそれ以上の広がりがないと思います。それで、何月何日にこんなことをしますというものがあつたほうがその次につながりますので、何かそこを考えてもらえれば協力します。

【市民】

今年度は、ほぼ行事が終わったので、書けるとしたら来年度ですかね。

【市民】

6月ぐらいですか。

【井出市長】

何をやるかさえ決めてもらえれば、それに我々も協力します。「広報能美」に出すときに、何か次に集まるきっかけをつくっておかないとそれで終わってしまいます。

【市民】

2月だったら学びフェスタですかね。

【市民】

もう立ち上がっていますし。もっとそういうのが先にわかれば、婦人会で1枠ほしいですって言えたかもしれませんが。

【市民】

でも、もう1回、話し合います。

【井出市長】

もし、その仕掛けができなくても、1回出てもらうことにします。別に今回だけではありません。次に出てもらってもいいですし。

【市民】

年明けのほうがいいです。

【井出市長】

それで、町会長・町内会長の方には私のほうから本当に（婦人会の）皆さんが悩んでいます、皆さんはどんなことを考えていらっしゃるのかを1回やります。

【市民】

町内会長がそれを把握できているのかどうか。

【井出市長】

そこからやります。

【市民】

まず町内会長が婦人会という組織があるのかないのかを知っているかどうか。

【市民】

そういうことをその広報に載せたらいいのではないですか。婦人会はこんなことをして
っている……。

【井出市長】

そこは皆さんでまた話し合ってください。そういうのに使いたいとおっしゃるならそれ
で使ってもらってもいいです。

【市民】

町内会長の集まりのときに、今の町内会長さんがこの意識があるのかないのか、ちょっ
と聞いてみたいと思います。

【井出市長】

そうですね。まず一遍聞いてみます。

【市民】

できたら、町内会長さんが婦人会に対してどういう思いがあるのかなという、見方とい
いますか、知りたいと思います。

【井出市長】

それぞれの地区のトップの人は全体のことを知っているというよりも、自分の町のこと
は知っているかもしれませんが、全体のことは把握してないかもしれません。もしそんな
機会がほしいということであれば、私のほうから1回言ってみます。婦人会の役員の人と
町会の役員の人が1回話し合う場があってもいいということであれば、そんな機会もつく
ります。

【市民】

町内会長さんを通したほうが話は広がるかなとは思っています。

【市民】

その（「広報能美」の）ページを割いてもらうときかって、能美市として全部が足並み
揃っているわけではないので、それぞれの特色をPRしてもらうなりしないといけません。
寺井とか辰口、根上のおかれている現状も違うし、それぞれに持っている悩みも違うかも
しれませんし。何か、能美市婦人団体協議会という1つのところに3つがぶら下がって
いますが、それぞれおかれている現状、共通点は会員の減少です。その会員の減少（を食

止めるの)につながる、それぞれの特色を生かしたページの工夫が必要だと思います。辰口だと、町ぐるみでごそっと抜けるのが問題であるとか、大きい町が入ってもらえていないということがあります。

【市民】

だから、そこを今特徴として、寺井校下だったらこういう問題を持っています、辰口だったらこういう問題を持っています、根上やったらこういう問題を持っていますということをまず出していかないと。

【市民】

能美市で足並みが揃っていないから、やっぱり各校下ごとに出すしかないかなとは思いますが。

【井出市長】

私的には会員をふやすのであれば、そこで現状を訴えるよりも、入ってもらえるとこんな楽しいことがあるよって書いてもらったほうがいいのではないかと思います。

【市民】

何か問題点を出すよりも、今広報に出ている、町会ごとに、町内会長さんの写真があって、町会の特徴が出ているじゃないですか。あんな感じで上げられればいいかなと思います。

【市民】

1人写真出して、婦人会はこんなことをしています、今度、こんなことしますみたいなページにしてもらえばどうですか。

【井出市長】

それはまた皆さんでどうするか話してもらえればいいです。

この間、「農業女子」というのを出したときに、すごく好評で、いろんなところから農業に頑張っている女性がこんなにいるのですねと、もっともっと頑張りたいという、そんな話をたくさんもらいました。だから、結構みんな見ていると思います。

【市民】

やっぱり、女性が頑張っているとか、ああいう記事出されると、見ます。

【市民】

それだったら、能美市の女性会が若いっていうのを出したほうが若い人は入るのかもしれないですね。

【市民】

でも、そこまで若くないです。50代の会員がいっぱいいるのが県では珍しいっていうだけのことです。

【市民】

それを出したらいいです。

【井出市長】

あと、例えば、市のイベントか何かの機会に婦人会のPRタイムみたいなのか（どうですか）。そういう機会を設けることもできるし、あとは「nomi」チャンネルの「GOGO PR」とかに出るというのもできます。まず、PRする機会をつくりましょう。ふやしましょう。

【市民】

読んで、目で見て、耳で聞く。

【井出市長】

これ（ワークショップの模造紙）をまとめたものはありますか。

【市民】

写真を撮ったものがあるので、送ります。

【井出市長】

これが生の声なので、見させてもらいます。

【市民】

「広報能美」は、やっぱりイベントとか催し物がありますよ、ぜひ来てくださいねってお知らせのほうが効果はあるのではないかと思います。

【市民】

各校下で衣装展示会をしています。それぞれ日は別ですが、そんなのも載せて……。

【市民】

それは載せてもらっています。

【市民】

あと、放送かけていただけるか、いただけないかです。

【市役所職員】

調べます。

【司会】

では皆さん、貴重な時間、市長さんにも貴重な時間を割いていただきまして、きょうはありがとうございました。

時間ももう遅いです。これは課題だと思うので、また皆さんと協力しながら一歩ずつ進むしかないと思います。きょう明日に人数がふえるわけでもありません。やっぱり言い続けることが大切だと思いますので、また皆さんと協力しながら、お願いします。きょうは、ありがとうございました。

【井出市長】

こちらこそ、ありがとうございました。